広報おおつち 2018 10月号
発行／大槌町　編集／総合政策課　〒028-1192 岩手県上閉伊郡大槌町上町1-3
TEL 0193(42)2111　FAX 0193(42)3855　HP http://www.town.otsuchi.iwate.jp/
印刷／㈱東海印刷所

今月の大槌びと

佐藤 ひろ美さん
（47歳・タレントプロダクション社長）

大槌町本町に生まれ、歌手を目指し高校卒業と同時に町を離れた佐藤さん。かつては「恥ずかしい」とさえ思っていた故郷を、今ではとても愛おしく、大切に感じていると語ります。

「なんたら田舎だべ」と思っていた子供の頃

佐藤さんは、高校生まで大槌町に住んでいたと伺いました。その頃、この町をどう思っていましたか？

佐藤さん（以下佐）―正直に言うと、「嫌い」でした（笑）「なんたら田舎だべ」「かっこ悪い」って思っていたんです。

出身地を隠していたとか？

佐―その通りです。岩手県出身とぼやかしていました。東日本大震災で父が行方不明になった時、色んな人に情報を求めるために、初めて大槌出身であることを明かしました。

今の佐藤さんからはむしろ「大槌が好き」という気持ちがひしひしと伝わってきます。

佐―きっかけはやはり東日本大震災だったと思います。自分の育った町や家を失って初めて、この町が好きだったことに気づいたんです。同時に、今まで恥じたり、感謝をしていなかったりした自分をとてもひどいと感じました。

町と家族はイコール 自分を育んでくれたもの

大槌の好きなところは？

佐―都会に暮らしたから分かるのかもしれないけれど、豊かな自然や美味しい食べ物、それらが宝物の様に感じます。こういう田舎らしさは、失くしてはいけないと思うし、「何もない」って思っていた事が実は得難い素晴らしい事だったと今は思います。

三陸♥おおつちPR大使としての意気込みを聞かせて下さい。

佐―震災後、自分にできることは何でもやろうと思ってやってきました。大使になるならないに関わらず、今までしてきたことを継続して町の力になりたいです。

今では、「大槌町出身です」と堂々と言えます。町＝家族ですし、自分を育んでくれたもの。この素敵な大槌町を、子どもたちが誇りに思って生活できるように、できる限りのことをして、大槌を世界中に発信していきたいです。

大槌びと クロストーク Cross talk

声の広報ボランティア
8月号「そよかぜ」のみなさん
×
10月号佐藤（さとう） ひろ美（みさん）さん

前号と今号の大槌びとが対談するコーナーです。様々な分野で活躍する大槌びとの皆さんが、誌面の上で出会います。「たし算」ではなく、「かけ算」の絆が、また新たな大槌を創っていきます。

佐藤さん（以下佐）――私は以前アニメソングの歌手や声優をしたり、今はマネジメントの仕事をしていて、「声」のお仕事という意味で共通点があると思うんですが、皆さんが声の広報をされていて学んだことは何ですか？

そよかぜ（以下そ）――始めたばかりの頃に、とにかく聞きやすく、はっきりと読む練習を家でしていたら、主人に「そうじゃない」と言われたんです。「感情を込めすぎないのは分かるけれど、目の前に相手がいると思って、聞かせるつもりで読んだ方が良いんじゃないか」って。

佐――素敵なご指導ですね。

そ――私もなるほどと思って、そのつもりで練習していったら、録音の後「今日すごく良かったよ」と初めて褒められたんです。

佐――素晴らしいじゃないですか！会社の子たちに聞かせたいです！私も例えば歌を歌う時、ライブだとお客さんがいて反応があるので良い声で歌えるんです。レコーディングではそう簡単にはいかないんですけど、今言われたことが大事なのかもしれません。

そ――やっぱり聞く相手の事を思いながら話すと伝わると思います。

佐――そうですね。声や音の力って不思議で、身近に感じたり、人の温もりを感じたりできるので、思いが伝わるんだと思います。いまだにラジオが無くならないのもそのせいじゃないかな。

そ――これからも皆でそういう気持ちで読んでいこうと思います。

佐――ぜひ頑張って活動を続けてください！

人口情報　【人口】11,974人（前月比＋4人）【世帯数】5,426世帯（前月比＋12世帯）（平成30年8月末現在）